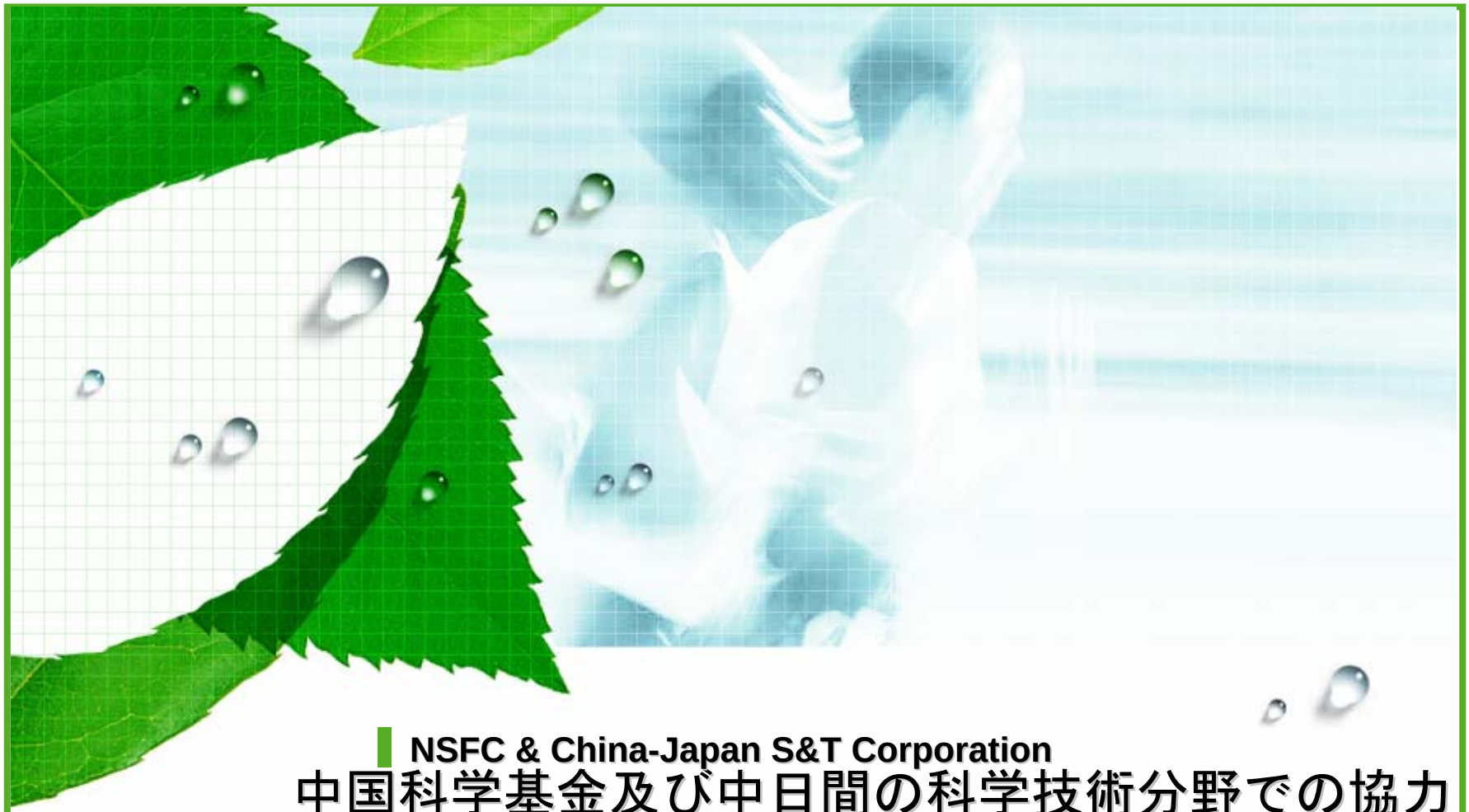


NSFC & China-Japan S&T Corporation

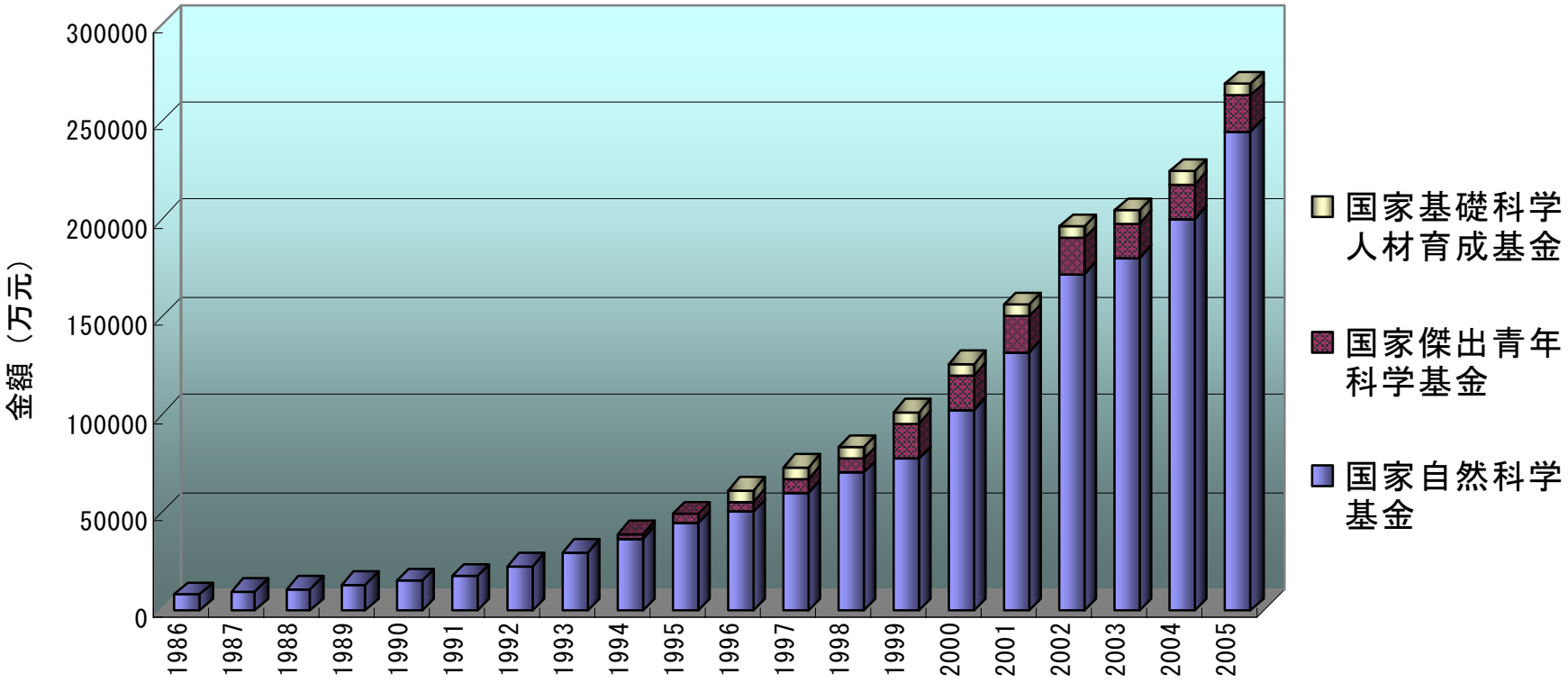
中国科学基金及び中日間の科学技術分野での協力

（2006年7月18日 東京）国家自然科学基金委員会　主任　陳宜瑜

国家自然科学基金委員会概要

- 1986年に設立された、中国の科学技術体制改革の重要な成果としてできた機関である。
- 使命は自然科学基礎研究の資金援助、科学技術人材の育成、科学技術・経済・社会の発展の促進である。
- 自由な探究を堅持し、方向付けの役割を発揮し、科学尊重、民主発揚、競争提唱、協力促進、イノベーション奨励、未来への道案内という活動方針を確実に貫く。
- 公平・公正・公開という活動原則を堅持する。

数年来の経費増加状況


金額（万元）
300000
250000
200000
150000
100000
50000
0
1986
1987
1988
1989
1990
1991
1992
1993
1994
1995
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
国家基礎科学人材育成基金
国家傑出青年科学基金
国家自然科学基金

「第11次5ヵ年計画」の発展目標

- 中国的特色を具えた科学基金システムを整備し発展させる
- 根源的イノベーションに有利な良好な環境作りに力を入れる
- 学科のバランス、協調及び持続可能な発展を積極的に促す
- 国際的影響力を有する一群の傑出した科学者および世界の科学の最先端にインパクトを与えるイノベーション集団を育成、養成し、基礎研究の全体的レベルと国際的競争力を高める
- いくつかの重要な分野で突破口を開くよう努力する
- 科学事業の繁栄、自主的イノベーション能力の向上、創造型国家の建設のために貢献する

4つの戦略

- 第1に根源的イノベーション戦略。科学の最先端および国家戦略のニーズを把握し、学科配置を整備し、学際的研究を推進し、科学技術イノベーションの根源的役割を発揮させる。
- 第2に科学技術人材戦略。あくまでも人を根本とし、基礎研究と教育の結合を促し、科学技術人材・集団を育成し、科学技術イノベーションのために豊富な人材資源を蓄積する。
- 第3にイノベーション環境戦略。基礎研究の重要性に対する社会全体の認識を高め、国内外機構との交流・協力を強化し、科学技術資源の共有を推進し、科学的精神を発揚し、科学の普及を促し、自主的イノベーションに有利な良好な環境を作り上げる。
- 第4に卓越管理戦略。科学基金管理体系および運営メカニズムを整備し、科学基金の取扱・管理能力を全面的に高める。

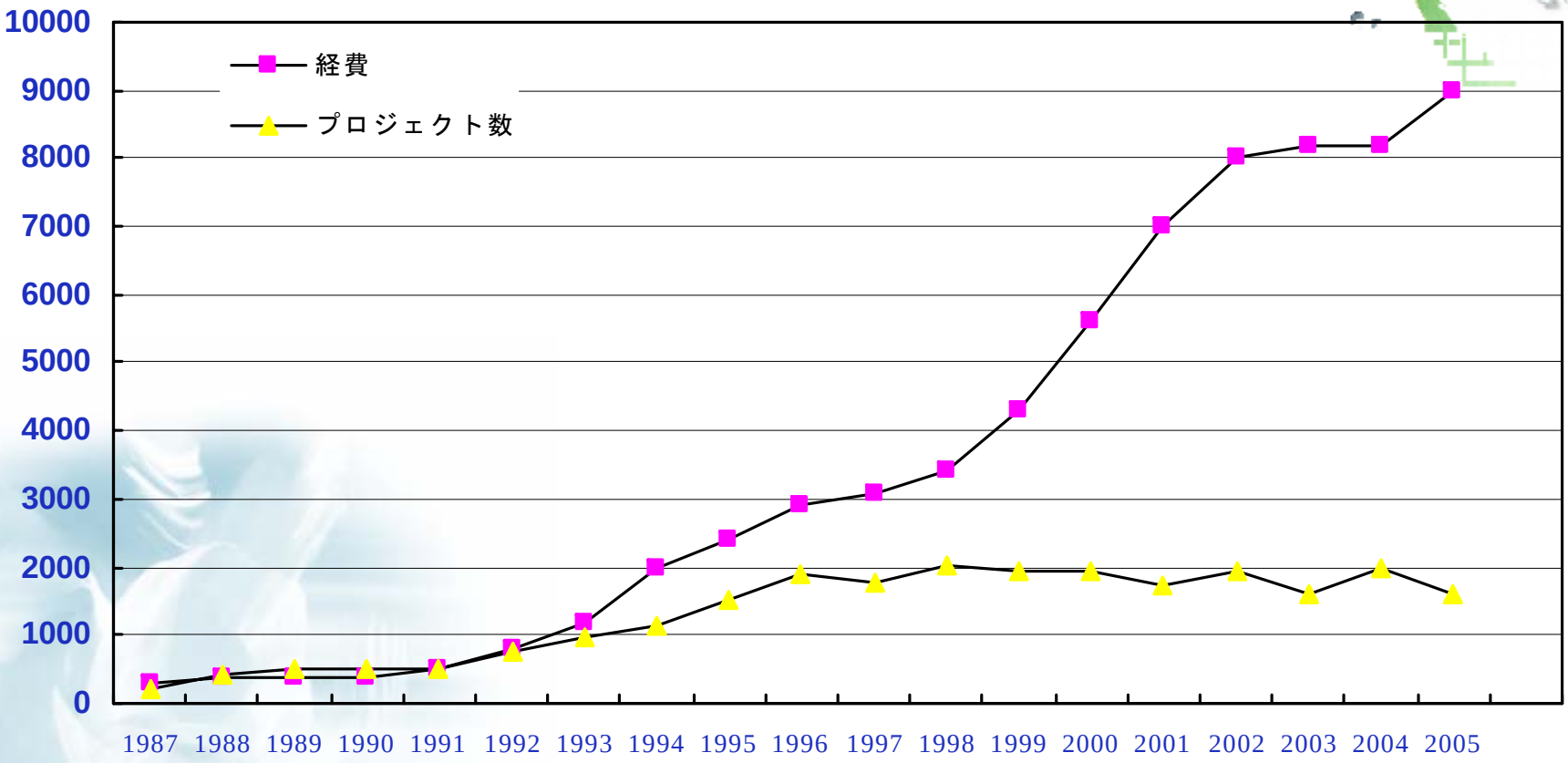
広範な国際協力・交流の展開

- エネルギー、生態環境、気候、海洋、自然災害、人類の健康等の分野の研究はしばしば国家の境界を越えている。いくつかの重要な科学的問題の解決には各国科学者の共同努力が差し迫って必要であり、科学者は必ず区域及び地球全体という角度から問題を考え、研究しなければならない。
- 基礎研究学科の最先端の全方位的開拓及び学科分野間の交流・融合・相互浸透の趨勢が絶えず強化され、科学イノベーションはより広範な新知識・新観点・新技術に関連しており、異なる国家、異なる文化的背景、異なる思考方式の科学者の間の交流が科学イノベーションのために新たなチャンスと原動力を与えた。
- 情報ネットワーク技術の空前の発展が研究資源と情報の流動を促した。国をまたがり、地域をまたがった共同研究組織が急速に形成され、勃興し、国際化とネットワーク化という開かれた環境の中での科学者の相互協力・交流を推進している。

協力協定の状況

- 20年にわたる発展を経て、中国科学基金は35の国及び地域の科学基金組織、科学技術機構と64の協力協定を締結しており、その中には日本のJSTおよびJSPSが含まれている。国際協力への投入の度合いは年を追って拡大し、持続的・安定的な増加傾向を保っている。20年間に科学基金は累計で各種協力・交流プロジェクト2万件余りを支援した。

科学基金による国際協力・交流の資金援助経費およびプロジェクト趨勢図（1987年～2005年）



国際協力交流プロジェクト経費概略図

NSFC総経費

- 一般プロジェクト 15%
- 重要・重点プロジェクト経費 10%
- 傑出青年基金プロジェクト経費 15～20%

基金プロジェクト中、国際協力に使える経費 10～20%

国際協力交流経費＜5%

日本との協力

- 1996年、国家自然科学基金委員会と日本学術振興会（JSPS）は東京においてNSFC/JSPS学術交流覚書を締結し、両国科学研究要員の学術交流促進の問題について共通認識に達した。過去9年間に、双方は48の共同研究プロジェクト及び26の二国間セミナーを共同で資金援助してきた。
- 2003年以来、国家自然科学基金委員会と日本の協力には比較的大きな2つの画期的出来事があった。1つは、JSPSおよび韓国科学技術財団（KOSEF）との良好な協力基盤の上に、中・日・韓協力の新たなメカニズムを開拓したこと、すなわち日中韓学術振興機関長会議を招集し、東北アジア会議を共同開設し、A3フォーサイトプログラムを資金援助したことである。

両国の科学技術発展計画

- 今年初め、中国は『国家中長期科学・技術発展計画綱要』を正式に公布・実施したが、『計画綱要』は自主的イノベーション能力の増強、イノベーション型国家の建設を軸に、中国の今後15年間の基礎研究を含めた科学技術事業について長期的方向付けを行った。
- 知識競争の時代に向けて、日本は今年から第3期科学技術基本計画の実施を開始し、今後5年間の科学イノベーション、科学技術人材への投資等の戦略目標を明確にし、基礎研究について展望を描いており、この重要な計画の実施は、日本の科学技術力と国の競争力を高める上で重要な役割を発揮するであろう。

未来に向けて

- われわれは日本というパートナーとともに、手を取り合って進み、ナノテクノロジー、バイオ技術、エネルギー、環境、情報、素材等の分野で実質的協力を展開したいと望んでいる。科学技術の力によって、中国、日本及び東アジア地域全体の自主的イノベーション能力を高め、科学の繁栄発展した美しい未来を共に創造しよう！

ご清聴ありがとうございます
http://www.nsfc.gov.cn/